

## H30地域協働研究（ステージⅠ）

### H30- I -05 「岩手県の中山間地域における農業を核とした地域活性化の取組と今後の展開～釜石市橋野地区等を事例として～」

課題提案者：岩手県

研究代表者：総合政策学部 吉野英岐

研究チーム員：佐藤桂祐（岩手県農林水産部農村計画課）

#### <要旨>

本研究では、岩手県立大学総合政策学部吉野研究室と岩手県農村計画課および沿岸広域振興局農林部が、釜石市農林課と研究対象地である釜石市橋野町の関係団体の協力を得て、地域特性を活かした農業生産や加工・販売、農村交流等の活性化にむけて、学生を交えた現地調査、ワークショップ、イベント支援活動を実施した。研究活動をふまえて、農産物直売所の商品の開発や陳列方式の改善、収穫感謝祭等のイベントのあり方について提言を行った結果、地域団体も今後の農業生産活動や加工品開発、イベントのもち方について、今後一層前向きな姿勢で取り組んでいく方向で意欲を増進し、実際に生産活動が拡大するなど、研究活動が地域活動にプラスのインパクトを与えることができた。

#### 1 研究の概要

岩手県の中山間地域は、人口減少や高齢化の傾向が著しく、集落の機能が低下し、農業生産機能や県土保全等の多面的機能を果たすことが困難になりつつある。岩手県は中山間地域の活性化に資する政策として、2016（平成28）年2月に「いわて農業農村活性化推進ビジョン」を策定し、同ビジョンの実現に向けて「いわて農山漁村コミュニティ活性化支援事業」を創設した。さらに2016（平成28）年度から地域協働研究を通じて、上記事業のモデル地区の中から釜石市橋野地区等を対象に、農業振興による中山間地域活性化に向けた取組への支援を行ってきたところである。

本研究では岩手県立大学総合政策学部吉野研究室が有する専門的な手法と調査経験により、橋野地区に対し、地域特性を活かした農業生産や加工・販売、農村交流等の取組に向けた助言等を行い、具体的な取組の定着を図るとともに、県内各地域へ波及させるべくこれまでの取組の検証等を行うものである。

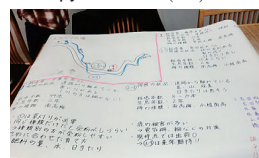
#### 2 研究の内容

釜石市橋野町は、世界文化遺産に登録（平成27年）された「橋野鉄鉱山」があり、地域の下流域にあたる鶴住居町では、ラグビーワールドカップ2019の開催が予定されており、今後交流人口の一層の増加が見込まれている。

研究の方法は、学生を交えた現地調査・ワークショップとイベント支援である。現地調査・ワークショップとしては2018年9月20日（木）～21日（金）に、学生約10名が参加し、岩手県の「いわて中山間いきいき暮らし活動支援事業」で取り組んできた梅の栽培の生育調査、橋野地区の魅力向上につながる資源調査（世界遺産・奥の院等見学）を実施し、その後、ワークショップ形式で梅MAPの作成や、地域資源を生かした提案ポスターの作成を行った。

また宿泊先として、鶴住居地区で民泊新法に基づいて開業した宿泊施設を利用し、経営主から新しい宿泊スタイル導入の経緯と活用についてレクチャーを受けた。

梅MAP（1）



梅MAP（2）



世界遺産見学



民泊先での講義



イベント支援としては、地域にある農産物直売場の収穫感謝祭（水車祭り）に対して支援を行った。具体的には、学生約10名が11月3日（土）に水車小屋の清掃、産直で販売する商品に関するPOP作りを行った。11月4日（日）は水車まつりで使用するテント・テーブル・イスなどの設置、豚汁・手打ちそば・きびの焼き団子・豆腐田楽などの製造販売活動補助、水車精米実演補助などに取り組んだ。



水車祭りのにぎわい



水車小屋全景



水車祭りでの販売支援



水車祭りでの販売支援



学生によるポップ



学生によるポップ

### 3 これまで得られた研究の成果

2019年3月4日に現地報告会を開催し、成果報告を行った。そこでは橋野町での活動と平行して取り組んできた全国各地の地域づくり活動の取組みも紹介し、今後の地域活動に参考になるポイントも指摘した。取り上げた事例で主なものは、京都府南丹市美山町の伝統的建造物群保存地区(茅葺屋根の住宅をいかした景観形成)や宮崎県川南町の軽トラ市である。



京都府南丹市美山町



宮崎県川南町

こうした先進事例では、地域の特徴や財産を認識し、その保全を図りながら多くの観光客を獲得している実例と、幅広い参加者を募りながら軽トラという共通性をもたせながら直売活動をしている姿を紹介し、そこに住民の主体性がいかされていることを指摘した。

またこれまでの橋野地区での活動を通じて、梅や舞茸、桑、菊芋といった地域の特色ある農業生産に対する住民の意欲の向上が見られたほか、大学生の受け入れや交流を通じて、次世代につながる地域づくりを継続していくことの重要性が地域で再認識された。さらに、菊芋、アピオス、ヤーコン(いずれも橋野町での栽培実績あり)からなる「世界3大健康野菜」等の学生提案による新しいアイデアについて、地元が興味を示すなど、研究成果に基づく提案が現地での活動に役立つ場面もみられた。

これらを通じて農産物直売所の持続可能性が高まり、地域のシンボルである水車小屋とともに、地域活動の拠点として、再認識されたことも成果としてあげることができる。

### 4 今後の具体的な展開

今後の展開に向けた3つの提案を行った。1つ目は事業で導入した梅と舞茸の栽培の着実な進展と地域づくりへの活用、2つ目は水車祭りというネーミングを生かしたイベントの内容の拡充と継続、3つ目は新商品の導入やレイアウトの工夫による農産物直売所の活性化である。

第1の梅と舞茸の栽培の着実な進展と地域づくりへの活用については、今後、肥培管理を徹底して、梅の木の生育をはかり、数年後に必ず梅を収穫・出荷する体制を確立する必要がある。また舞茸についても連続的に収穫ができるように栽培技術の改善に取り組むことが必要である。さらに将来的には、梅園をいかした景観づくりと見学路をつくり、世界遺産である橋野鉄鉱山へ通じる梅の玄関口と回廊を形成することが望まれる。

第2の水車祭りというネーミングを生かしたイベントの内容の拡充と継続については、美しい水車あつての水車祭りという意識を徹底させて、水車を生かした祭りメニューの開発に一層取り組んでいくことが望まれる。そのために水車の清掃や農産物の販売担当者のボランティアを広く募集してスタッフを確保することが必要である。また当日は地元郷土芸能の実演、地元小中学生のダンス・よさこいソーランなどについて、釜石市の他の地区との連携や共同企画も視野にいれていくべきである。

第3の新商品の導入やレイアウトの工夫による農産物直売所の活性化については、農産物の栽培者・販売者を勇気づけるために、ここにしかないオリジナル商品の販売や、世界3大健康野菜の栽培と販売実現を高めることや、商品の陳列の仕方の一層の工夫、さらに地域の有名店「橋野食堂」とメニューや食材面で提携を図るなど、地域内の連携も図っていくべきである。



手入れされた景観



橋野食堂

### 5 その他

研究活動全般を通じてご協力いただいた岩手県沿岸広域振興局農林部ならび釜石市役所農林課、そして現地の住民の方々へ厚くお礼を申し上げます。また複数年にわたって現地を訪問し、ワークショップやイベント支援活動に取り組んだ岩手県立大学総合政策学部吉野研究室の学生にも改めて感謝します。



現地での昼食会



参加した学生たち